

★学校教育目標		○確かな学力	○豊かな心	○たくましい体	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン） 『たしかな学力・ゆたかな心・たくましい体 ～強く、やさしく、かしこく、笑顔で前向きに生き抜くひらやまっ子～』					
【めざす児童・生徒像】	◆よく考え、表現し、いろいろな考えを知って新しい知恵を創造するひらやまっ子 ◆感謝の気持ちと真心をもって、進んで人のために行動できるひらやまっ子 ◆よく食べ、よく運動し、困難にも負けずに生き抜こうとするひらやまっ子				
【めざす学校像】	◆笑顔とありがとうのあふれる元気な学校 ◆「生き抜く力」と「主体的、協働的、創造的に行動する態度」を育成する学校				
【めざす教師像】	◆常に明るい笑顔で、未来に生きる子供たちの力を最大限に伸ばそうと前向きに挑戦する教師 ◆一人一人が分掌のリーダー、フォロワーになり、チーム力で学校を創っていく教師 ◆10th Anniversaryの年を祝い、保護者・地域の方と一緒に、子供たちの力を育むために連携を図っていく教師				
					【平山小学校のキーワード】 歴史・伝統への感謝と未来への希望 『4Ts：Thanks（感謝）Tradition（伝統）Try（挑戦）Technology（科学技術）』
					◆今まで本校で研究してきた“生きぬく力を育むための新たな学びの創造”に向けて、挑戦を継続していく。具体的には、文部科学省 研究開発学校として開発してきた「生きぬく科」の学習内容を、教科横断的なカリキュラムマネジメントで実施していく。また、『産学官共同プロジェクト 次世代型学びプロジェクト「ひの@平山小」』で積み重ねてきたICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実践していく。
					◆今年度は、新校平山小学校として10年が過ぎたことを祝う10th Anniversaryの年である。多くの人々に支えられて最高の学びの環境を整えていただいたことに感謝の気持ちをもって、6年後の150周年記念行事につなげていく。具体的には、10th Anniversary学習発表会、平山季重まつりの会場、平山中地区育成会の防災キャンプ会場になることで、子供たちが地域と積極的にかかわる機会を多く設け、コミュニティスクールとして、地域とともに未来のまちの担い手となる子供たちを育てていく。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
A 子供	自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針1)	知識や技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果を表現する力や、主体性をもち、多様な人々と協働しつつ学習していく態度を育てる	情報教育に関する指導計画に基づいたICTを活用したディープ・アクティブ・ラーニングにより、主体的・協働的・創造的な児童を育成する。	2	4 情報教育に関する指導計画の項目について、10項目以上活用して新たな学びに挑戦した教員が100%	3	4 児童の学びアンケートで、新たな考えを生み出せたと答えた児童が90%	子供たちはどの学年でも落ち着いて、意欲的に取り組んでいるように見える。学習指導要領の改訂にあたり、主体的、対話的、深い学びがキーワードになっているが、この中でも深い学びとはどのような学びであるのかははっきりしない。学校として、もう少し見える形で発信していったほしい。また、基礎・基本的な学力の定着を図ってほしい。そのために、2学期末から始まった放課後算数教室の取組を充実させ、小中の連携も見据え、続けていったほしい。	昨年度末に見直しした情報教育に関する指導計画の項目について、10項目以上活用した教員は83%であった。ICT活用に沿った計画であったため、アナログでもできる情報活用能力の育成の必要性を感じた。今年中に、より実行性のある計画に見直ししていく。成果指標の児童の意識では、毎年の課題である「友達の考えや意見に対して、質問したり、意見を言ったりしている。」は、今年度も他の項目に比べて低い。しかし最も低かった一昨年度よりは2%高く、本校が目指している児童主体の深い学びが継続して実現できている成果だと考える。来年度は、これまでの成果を継承しつつ、すべての学習の基盤となる特別活動を充実させ、新学習指導要領に示された、これからの時代に必要とされる資質・能力の向上を図っていく。
					3 情報教育に関する指導計画の項目について、10項目以上活用して新たな学びに挑戦した教員が90%		3 児童の学びアンケートで、新たな考えを生み出せたと答えた児童が80%		
					2 情報教育に関する指導計画の項目について、10項目以上活用して新たな学びに挑戦した教員が80%		2 児童の学びアンケートで、新たな考えを生み出せたと答えた児童が70%		
					1 情報教育に関する指導計画の項目について、10項目以上活用して新たな学びに挑戦した教員が70%		1 児童の学びアンケートで、新たな考えを生み出せたと答えた児童が60%		
B 子供	たくましく生きるための健康・安全や体力の育成 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針1)	健康で幸せな生涯を送るために体力の向上を図る。	体力の向上を図るために、体育の授業以外にも、週2回の「パワーアップタイム」で、「走力」「柔軟力」「握力」「投げる力」を付けるための重点的な取り組みを行う。	3	4 パワーアップタイムの取組を行った教員が100%	4	4 秋の体力測定の結果（学年平均）が、春の結果を上回った学年が7学年	平山小学校の特色ある教育活動の1つで、素晴らしい取組である。今年度の体力調査の結果から見てきた実態をもとに、伸びてきている面はさらに向上できるよう、課題となる面は具体的な取組を通して改善されることを期待する。	昨年度からの課題であった持久力・投げる力を付ける取組としてパワーアップタイムを行った。持久力を高める運動として、持久走を年間通して実施し、投げる力を高める運動として、キャッチボール・クランクや平山ストレッチ・ソフトボール投げ）では、全学年で春の結果を上回ることができた。体力測定を全国と比較すると、全体的に体力の低さが見られるが、年間を通して持久走を行った結果、昨年度よりも差が小さくなり、全体的な体力の向上が見られている。次年度も引き続き、年間を通して継続的に「走力」「投げる力」を付けるための取組を行う。また、今年度は「握力」「敏捷性」に課題が見られたので、次年度は反復横跳びやラダートレーニングの運動を取り入れていく。
					3 パワーアップタイムの取組を行った教員が90%		3 秋の体力測定の結果（学年平均）が、春の結果を上回った学年が6学年		
					2 パワーアップタイムの取組を行った教員が80%		2 秋の体力測定の結果（学年平均）が、春の結果を上回った学年が5学年		
					1 パワーアップタイムの取組を行った教員が70%		1 秋の体力測定の結果（学年平均）が、春の結果を上回った学年が4学年		
C 教師	次代をつくる特色ある学校づくりと魅力ある学級・授業のデザイン (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針2)	教員同士の学び合いを通して相互研鑽することで、授業力や専門性を高める。	前年度までの研究開発学校としての研究を生かし、カリキュラムデザイン（総合的な学習の時間生きぬく科を中心に各教科で横断的に指導）とアクティブラーニング（主体的・協働的に問題解決する場を意図的に設定）を実践する。具体的には、昨年度完成させた『生きぬく科ミニミニ授業セット』を実践する。	2	4 『生きぬく科ミニミニ授業セット』の授業を3本行った教員が100%	2	4 生きぬく力に関連する自己評価アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合が90%	「特に変化がなかった」と答えた児童が昨年度より多かったということについての理由が明確ではない。評価方法そのものに課題があると感じるので、来年度以降、その方法の改善を望む。また具体的に地域への参加として、「生きぬく科」の学びを地域懇談会や市内プレゼン大会等で発信しているが、参加の方法に偏りがあるように感じる。学校全体としてパランスよく発信していく体制を構築していったほうがよい。	研究開発学校の指定が終わった今年度は、これまでの研究を継承し、定着させていくため、総合的な学習の時間の年間指導計画の中に、「生きぬく科」の内容を位置付けた。取組指標として、昨年度までに開発した「ミニミニ授業セット」を活用した授業を3本行うという達成率は81%であった。生きぬく科の研究に携わってきたミドルリーダーの教員の多くが地域へ移動する中、評価が「2」となったことは、今後の基盤になったと考える。成果指標として、「生きぬく科」の学習によって自らの行動に少なからず変化があったと答えた児童が72%であった。昨年度は86%であったことから、数字上は14%のマイナスである。しかし特に変化はなかった。」と答えた児童の中には、昨年度までの学びが継続され、常に高い意識をもちているからこそこの回答であった。これらの結果から、「生きぬく科」をカリキュラムに位置付け、継続的に授業実践を積み重ねることは、児童の防災・防災への意識の向上、継続につながっていることが分かった。来年度以降、より学習内容をさらに精査し、農業体験の充実も図り、児童が「いのち」の尊さを真に感じられる学びを展開していく。
					3 『生きぬく科ミニミニ授業セット』の授業を3本行った教員が90%		3 生きぬく力に関連する自己評価アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上		
					2 『生きぬく科ミニミニ授業セット』の授業を3本行った教員が80%		2 生きぬく力に関連する自己評価アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合が70%以上		
					1 『生きぬく科ミニミニ授業セット』の授業を3本行った教員が70%		1 生きぬく力に関連する自己評価アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合が60%未満		
D 学校 家庭 地域 社会	学習・生活習慣の確立と家庭の受容力・教育力の向上 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針3)	家庭との連携を図りながら、学校での基本的な生活習慣を確立するとともに、いじめ問題の防止、早期発見に努める。	キラキラ運動（①あいさつ・返事・ありがとう②時間を守る③右がわをしすかに歩く④聞き上手あいさつ）の4項目を、年間を通して取り組むことによって、互いを思いやる心を育てる。家庭や地域との連携を図りながら、毎週金曜日にルーブリックをもとに自己評価するとともに、児童の心境的の把握に努める。	3	4 「キラキラ運動」4項目について指導し、ルーブリックに沿った週1回の振り返り活動を行った教員が100%	2	4 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が80%	キラキラ運動自体は、とてもよい取組である。学校として、日々の生活習慣でどのようなことを身に付けさせたいかが、明確である。学年が上がるにつれて自己評価が低いのは、ただ自分に厳しいということだけではなく、自己評価をする基準が不明確なのではないだろうか。学校の説明よりルーブリックの作成という話があったので期待する。	キラキラ運動は、4つの項目（①あいさつ・返事・ありがとう②時間を守る③右側歩行④聞き上手あいさつ）に絞ったことと、ルーブリックを作り実態に合わせて目標を決めて取り組んだことで、目標がはっきりし、達成する児童が増えた。また、昨年度の課題であった、週目標の偏りについても、年間を通してパランスよく指導できるようにした。次年度は、月目標に沿って4つの項目について週目標を定める。振り返りについては、各学級で振り返りを金曜日に行い、学級や学年全体で声掛けを行いながら目標を達成できるよう意識付けをしていく。
					3 「キラキラ運動」4項目について指導し、ルーブリックに沿った週1回の振り返り活動を行った教員が90%		3 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が70%		
					2 「キラキラ運動」4項目について指導し、ルーブリックに沿った週1回の振り返り活動を行った教員が80%		2 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が60%		
					1 「キラキラ運動」4項目について指導し、ルーブリックに沿った週1回の振り返り活動を行った教員が70%		1 4項目全ての目標を達成できて、銀カードや金カードに進めた児童が50%		
E 学校 家庭 地域 社会	グローバルな視野をもったつながりによる教育 (第2次日野市学校教育基本構想 基本方針3)	あいさつ・笑顔のあふれた明るい学校づくりを目指す。	10th Anniversaryの年として、教員、児童は感謝の気持ちを持ちながら、あいさつの行き交う学校・地域目指して、地域の行事に積極的に関わる。	3	4 地域の行事に3回以上参加した教員が100%	4	4 保護者・地域へのアンケートで、あいさつの行き交う学校であると答えた割合が90%	挨拶に関しては、本当に難しい面がある。丁寧な挨拶の子供もいれば、視線も合わせない子供もいる。何年前にも話題にしたが、教員の中でも、挨拶に対する温度差があると声が出ている。大人の姿勢は子供も見ているので、まずは、大人の対応をしっかり行ってほしい。	校内で自ら挨拶をしてくる児童は少ないが、自発的に挨拶をしている児童に声を掛けるととてもうれしそうな笑顔で応えている。朝の入校時に、挨拶ができる児童は多いが、お昼や午後など朝の時間以外で初めて出会う人にとり挨拶すればよいかを戸惑っている児童の姿も見られる。様々な挨拶があることを声掛けしていく必要がある。
					3 地域の行事に3回以上参加した教員が90%		3 保護者・地域へのアンケートで、あいさつの行き交う学校であると答えた割合が80%		
					2 地域の行事に3回以上参加した教員が80%		2 保護者・地域へのアンケートで、あいさつの行き交う学校であると答えた割合が70%		
					1 地域の行事に3回以上参加した教員が70%		1 保護者・地域へのアンケートで、あいさつの行き交う学校であると答えた割合が60%		